

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	01936000153		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	令和6年2月16日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=0193600053-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『ありがとう 言われるよりも伝えたい』
 人生の先輩でもある、入居者の方々に敬意をもって、日々「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えられるような支援を目指しています
 少人数・短時間の面会制限中ですが、感染対策を充分に行い、会いたいときにいつでも会えるよう、家族様にとって実家のような心地よさを感じていただけるよう努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームほたるは、閑静な住宅街に位置し、周辺には学校や公園があります。職員全員で考えた理念「ありがとう 言われるよりも伝えたい」のもと、理念の実践のために研修やカンファレンス等で折に触れて確認し、支援に繋がっています。運営推進会議では、家族や地域関係者の意見を運営に反映し、行政とも協力関係を築いています。身体拘束廃止に向けて、委員会やカンファレンスで定期的に検討しています。職員の意見も運営に反映し、利用者の希望に沿った外出や電話、手紙等の支援を行い、家族の協力も得ています。介護計画は定期的に更新し、家族の意向も反映しています。医療面では、協力医療機関の往診を利用し、家族への報告や専門科受診の支援を行っています。重度化や看取りにも、指針に則って対応しています。避難訓練や業務継続計画(BCP)の作成、備蓄にも取り組んでいます。排泄や入浴ではプライバシーに配慮し、利用者の意向を尊重しています。食事は、行事食やラーメン祭り等で楽しみを提供しています。施設内は、安全性と季節感に配慮した環境づくりを心がけ、居室は、なじみの家具や好みの表札で、利用者の個性を大切にしています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆に見える玄関に設置し、職員間で共有し実践に努めている	事業所内での掲示やパンフレットへの記載だけでなく、新入職員の研修時、カンファレンスやミーティングの際にも取り上げることで確認し、理解を深め、ケアの実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	外出の機会は減ったが、感染対策を充分に行い、地域の小中学校や保育園とのつながりは少しずつ増やしている	近隣の小学校でキッズサポーター養成講座を実施し、中学校からは職業体験の生徒を受け入れています。敬老の日には近所の保育園からプレゼントがあり、小学校からは発表会のDVDの寄贈があるなど、少しずつ交流を再開しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小中学校での認知症サポーター養成講座や中学校の職場体験の受け入れを行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様・民生委員・地域包括職員・市担当者との定期的な会議を行っている。その後、議事録を回覧、全家族へ配布している	家族、民生委員、地域包括支援センターの職員、行政職員が参加し、定期的に開催しています。市内の感染状況に合わせた面会制限のあり方など、意見を運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で伝え、何かあれば都度報告・相談し、協力関係を築けるよう努めている	介護福祉課とは、運営推進会議の時だけでなく、適宜相談しています。スタッフがコロナに感染した際の対応や成年後見制度の利用について助言を得るなど、協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会だけでなく、毎月のカンファレンスでも、安全対策としてのセンサー・サイドレール等の使用を定期的に話し合っている。夜間のみ施錠、拘束の無いケアを職員一同で取り組んでいる	防犯のため、夜間は玄関に施錠しています。グレイゾーンへの対応については、定期的開催している身体拘束廃止委員会の時だけでなく、カンファレンスの際にも検討し、拘束のないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止推進委員会やカンファレンスで職員間で話し合い、ネットを使用するの研修も行い日々防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいるため、制度についての話を聞き、活用を支援しているが、職員により認識の差があるため周知に努めたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・退去・看取り等、十分な説明をご家族様にさせていただいた後に契約を行っている。また、改定の際には説明の後、同意書をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・避難訓練等に参加時の意見や要望だけでなく、面会や通信支援の際にも要望を言いやすいような関係作りに努めている	意思表示が難しい利用者は、仕草などから意向を探り、職員間で共有しています。家族からは面会時や電話の際にも意見を出しやすい雰囲気作りに留意しています。玄関に意見箱を設置しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで話し合い、その結果を管理者より施設長・代表者へ伝えている	職員は法人代表者の来訪時に直接意見を伝えることができます。管理者は朝の申し送り時や、日々の支援時に職員の意見を聞き、運営に反映しています。今年度はエアコンと発電機を職員の提案で導入しました。	現在中断している定期面談を再開することで、日常的には収集できない個別の職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映していくことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングで話し合い、負担が軽減され職員が働きやすいように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修や内部での勉強会を、できるだけ勤務時間内で行っている。少しずつ外部の研修会への参加も増えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	姉妹施設や外部の研修等で連携を図り、サービスの質の向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人と面談し、施設に対しての不安をお聞きし、入居前より本人の要望を職員全員が周知し、自分らしく生活できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の手紙、電話や面会時に不安や要望を聞きながら、ともに支えていく関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新しい場所での生活の不安を受け止め、本人・家族との会話の中から職員全体で話し合いケアプランの作成、周知・実践に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉使い、伝え方を変えることで、家族のような、友達のような居心地の良い関係でいられるように努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙、現況報告、面会時の対応など共に支え合う者同士、なじみの関係が築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望があれば、感染対策を行い支援に努めている	本人や家族の希望に沿って、柔軟に対応しています。畑に咲いた菜の花を見に行ったり、電話や手紙での支援をしています。法事や墓参りなどの外出は、家族の協力を得ています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をベースに、関係悪化しそうな時は介入し、良好な関係を続けていけるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もいつでも家族と連絡が取れる関係性は確保されていて、いつでも相談に乗れるよう努めている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を大切に、表情・しぐさ等から本人の希望に沿えるよう職員全体で検討し、実践につなげられるよう努めている	利用者との日常会話はもちろん、意思表示が難しい利用者についても、表情や仕草から意向をとらえるようにしています。得られた情報は記録し、職員間で共有しています。また、家族からも過去の状況を聞きとり、その情報を踏まえて対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のフェースシート、本人・家族からの聞き取りを職員全員で共有し、把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日決まった時間にバイタルチェックを行い、できずなくなったことなど、日々の変化を職員間で申し送り、共有し把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のモニタリングで意見交換を行い、大きな問題となる課題の際は、家族にもサービス担当者会議に参加していただき反映に努めている	介護計画は、利用者の身体状態の変化時だけでなく、スタッフ全員でモニタリングし、計画担当者が4ヶ月ごとに介護計画を更新しています。家族の意向は、請求書に同封した要望書への回答や電話での確認、サービス担当者会議への参加を通して、介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にサービス提供記録、経過記録、医療経過記録に記入し、職員はいつでも見られるよう共有しカンファレンスなどで話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランを基本としながら、その状況に合わせた支援を行うよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出前や貸し出しなどを利用し、楽しんでもらえるよう工夫している。また、感染対策を行いながら、職員が付き添い外出することも増えている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(月1~2回)の往診や定期的な訪問看護で対応している。必要に応じて他の病院も受診できるよう支援している	利用者、家族の意向を確認し、かかりつけ医または協力医療機関の受診を支援しています。現在は全員が協力医療機関の往診を利用しており、診察の状況についてはその都度家族に報告しています。専門科受診時には家族の協力を得ています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の定期訪問のほか、緊急時には24時間対応で電話による相談・指示、必要に応じ訪問を受ける体制ができています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先との情報交換を行い、主治医・訪問看護とも連携し早期退院に努め、配慮面の指示をもらえるよう関係作りを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人・家族と話し合い、医療ケアに関する確認書に沿った要望を、主治医・訪問看護と共有し支援できるよう努めている	重度化した場合は、指針に則って対応しています。看取りも行っており、医師や看護師からの意見を踏まえ、家族とも話し合いの上、希望に沿えるよう支援しています。定期的に指針の内容を確認し、方向性を決めて対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間体制で連絡し指示を受けられる体制は整っており、職員全員が対応できるよう話し合い、身につけている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っており、全職員が参加し避難方法は身につけている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っています。近隣の参加はありませんが、発電機の起動訓練も実施しています。現在、業務継続計画(BCP)を作成中であり、水と食料は3日分備蓄しています。	計画的に全ての職員が避難訓練に参加することが望ましく、また、業務継続計画(BCP)を早期策定し、その内容を職員間で共有し、災害に備える取り組みを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、プライベートに配慮し、職員は意見交換を行いより良い支援ができるよう努めている	排泄時の声かけは、利用者を傷つけないよう、さりげなく行うよう心がけています。「お薬を付けるよ」など、個人の意向を尊重し、人に見られたくない、知られたくないといった気持ちに配慮しています。職員には、自分がされたらどう思うかを想像し、支援するよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境、思いを伝えやすい関係を築き、自己決定がしやすいような選択肢を提供している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースを最優先に意図をくみ取り、都度希望に沿えるよう対応し支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを把握し、自己決定や一緒に選ぶ楽しさを伝えられるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好み、食事形態にも配慮し、安全で楽しく食事が摂れるよう工夫している。準備、片付けも職員と一緒にすることで「できること」を継続できるよう努めている	行事食を取り入れ、誕生日には利用者の好みのメニューを提供しています。味やトッピングを選べるラーメン祭りを開催したり、使い慣れた食器や食べやすい食器を選んでもらうなど、食事が楽しみになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの持病を把握し、サービス提供記録に記載し必要な食事量、水分量が摂れるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけのみで、なるべく自分でできるように支援している。必要に応じて訪問歯科受診し対応している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しカンパレンスなどで話し合い共有し、個々の必要に応じて誘導・声かけを行い、排泄できるよう自立支援につなげている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、ブライバシーに配慮した声かけを行っています。意思表示が難しい利用者は仕草から汲み取り、職員間で情報を共有して、トイレでの自力排泄を支援しています。おむつは状態に合わせて最適なものを選択し、利用者の希望も取り入れています。夜間も時間を見ながら排泄の声かけを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るだけでなく、乳製品の積極的な摂取や食事を工夫し、運動を勧めるなどの取り組みを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人のタイミングで入浴できるよう支援している。拒否のある場合は入浴が楽しめるよう声かけにも配慮し、職員間で情報を共有している	入浴は週2回を基本としていますが、一日おきや随時の入浴希望にも対応しています。利用者の希望に応じて、同性介助も行っています。個人ごとの好みのシャンプーやタオル等を使用し、さらにお湯の温度や入浴順にも配慮しています。入浴中に交わされた会話の内容は支援に活かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は本人のペースで取っていただいている。昼夜逆転してしまわないよう声かけを行い、夜間ゆっくりと眠れるように工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個別に、いつでも見られる場所に保管しており、職員はそれを把握できている。誤薬防止に努め、変化がある際には訪問看護に相談し医師の指示を仰いでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴、性格を把握し、季節を感じながら楽しんでいただけるよう努めている。役割は決めず、気になったことはしていただいている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降外出はほとんどしていなかったが、感染対策をしながら少しずつ増やしていけるよう努めている	コロナ禍以前は、利用者と近所のコンビニへ買い物に行っていました。現在は、担当職員とマンツーマンで回転寿司に行くなど、外出の機会を増やしています。年末年始には自宅への外泊を希望に沿って支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望された方は所持している。物とられ妄想が出現した方でも、本人が希望される限り家族と話し合いながら所持していただき、買い物代行もしながら本人が支払う形をとっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、電話、携帯などいつでも連絡することができ、大切な方と途切れることがないよう努めている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、安全に移動できるよう整え、壁面の飾りつけ、畑での収穫など季節を感じていただけるよう工夫している	共用空間は利用者の安全と動線に配慮した家具の配置を心がけ、仲の良い利用者同士が過ごしやすいよう、都度レイアウトを変更しています。また、職員と利用者で季節感を取り入れた飾り付けを行っています。施設の畑では、きゅうり、なす、トマトなどを栽培しており、ボランティアとして元施設長や利用者の家族が畑仕事を手伝っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分たちのペースで過ごせるよう工夫しており、必要に応じてのレイアウトは特に気を配っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものを使用していただき、レイアウトも本人、家族と相談しながら、安全で心地よく過ごせるように工夫している	利用者のなじみのある筆筒や仏壇、テレビ、机などを持ち込み、居室で安心して過ごせる環境づくりを心がけています。居室の表札も利用者や家族が好みのデザインを選んでいただくことで、自分らしい空間を演出できるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でできること、わかることはプレートを使用したり、本人の手の届くところに置くなど工夫している。車いすを使用している方もいるため、安全に生活できるよう動線も確保している		